

『1番大切な命令？』

'20/04/26(ライブ礼拝)

聖書箇所: マルコの福音書 12章 28-34節(新約 p.92-)

いよいよ、今週から GW がスタートしますが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか？…正直、私も、せつかくの心地良い季節なので、どこかに出掛けたいのですが、今は、新型コロナウイルスが感染しないよう、国民全員で自粛していきましょう！ということなので、ぜひ、協力していきたいですね？

…でも、感謝なことに、神様を礼拝することは、どこでだってできます！要は、私たちの心次第です。ぜひ、神様に喜ばれるような礼拝を、今日も皆さんと一緒に捧げていきたいと思えます。まずは、賛美集 22番、「生ける限り主を」を賛美いたしましょう！

<メッセージ>

私たちは、毎週、神様が与えてくださった聖書のみことばを学んでいます。今日は、その聖書の中でも、最も重要なみことばとも言い得る、あるエピソードから学んでいきたいと思えます。どうして、今日のみことばが、最も重要なみことばと言い得るのかと申し上げますと…、ある人物が発した、「聖書の中で、1番大切な教えはどれですか？」という質問に対して、イエス様ご自身が、「1番大切なのは、これです。…」と言って、教えてくださったのが、今日のみことばであるからです。

命題: イエス様が教えてくださった、1番大切な命令とは何だったのでしょうか？

そこで今日、私たちはマルコ 12章に記されてある、みことばと一緒に学んでいくことによって…、この聖書が教えてくれている福音のメッセージを、私たちが、より正しく理解できていくことを願います。果たして、イエス様が教えてくださった、この聖書に記されてある命令の中で、1番大切な教えとは、どういったものなのでしょうか？そして、また、この教えを実践した場合に伴う結果とは、どういったものなのでしょうか？また、一体どうして、この教えが1番大切なのでしょうか？

今日は、そういったことを今から一緒に確認をしていきたいと思えます。そうすることによって、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、主なる神様の“みこころ”というものを理解することができ…、皆さんが、その神様からの祝福をますますご自分の手にしていただけますことを願うものです。まずは、今日のみことばである、マルコ 12:28-34 を、こちらの方で読ませていただきます。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、マルコ 12:28-34 をお開きくださいますようお願いいたします。

28 律法学者がひとり来て、その議論を聞いていたが、イエスがみごとに答えられたのを知って、イエスに尋ねた。「すべての命令の中で、どれが一番たいせつですか。」

29 イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ、聞け。われらの神である主は、唯一の主である。』

30 心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

31 次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」

32 そこで、この律法学者は、イエスに言った。「先生。そのとおりです。『主は唯一であって、そのほかに、主はない』と言われたのは、まさにそのとおりです。」

33 また『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人をあなた自身のように愛する』ことは、どんな全焼のいけにえや供え物よりも、ずっとすぐれています。」

34 イエスは、彼が賢い返事をしたのを見て、言われた。「あなたは神の国から遠くない。」それから後は、だれもイエスにあえて尋ねる者がなかった。

I・主なる神を、全身全霊の愛で愛する！（28-30節）

まずは、今読んだみことばの内、前半部分に注目をしていきたいと思えます。そこで、イエス様が教えてくださっていることは、私たちの主なる神様を、私たちが、“全身全霊”の愛でもって愛するべきである！ということであります。そのことを、今から、もう少し詳しく確認していきたいと思えます。

●当時の律法学者たちが抱えていた間違い

実は今日、私たちが学ぼうとしている、このエピソードは、イエス様がもう間もなく、十字架にかかられるという頃のエルサレムで起こりました。そのような時、イエス様のもとへ、ある1人の『律法学者』がやって来ました。この『律法学者』と言いますのは、簡単に言いますと、この当時、学校や「シナゴグ」と呼ばれていた会堂において、律法を教えるという働きをしておりました。しかし、彼らの教える律法とは、表面的な事柄ばかりで…、残念ながら、その“本質”を見抜いたものではありませんでした。しかも、彼ら律法学者たちは、神がみことばを通して与えてくださった教え以上に、自分たちが先祖から代々受け継いでいた伝統（≒それを、彼らは「口伝律法」と呼んでいた＝つまり、人間の教え）の方を重んじる傾向にあったのです。…そういったこともあって、彼ら律法学者たちは、イエス様と激しく対立することがありました。…と言うのも、先程言いましたように、彼ら律法学者たちは、神様からの教えよりも、人間の教えの方を優先してしまっていたからです。

さて、今日のみことばに出てくる『律法学者』は、少し前からイエス様のところへ来ていて…、イエス様とパリサイ人、あるいは、イエス様とサドカイ人たちの議論を聞いておりました。そこで、彼は、イエス様に対して、こんな質問をしました。それが、28節の、『すべての命令の中で、どれが一番たいせつですか？』というものでした。

どうか、皆さん、もしできましたら、マルコ 7章を開けてみてください。そこをみてください、当時のユダヤ人たちが如何に、神様からの教えというものを粗末にして…、自分たちの伝統や人間の教えを優先してしまっていたか、ということが記されてあります。マルコ 7:1-13、『1 さて、パリサイ人たちが幾人かの律法学者がエルサレムから来ていて、イエスの回りに集まった。 2 イエスの弟子のうちに、汚れた手で、すなわち洗わない手でパンを食べている者があるのを見て、 3 ——パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人たちの言い伝えを堅く守って、手をよく洗わないでは食事をせず、 4 また、市場から帰ったときには、からだをきよめてからでないと食事をしない。まだこのほかにも、杯、水差し、銅器を洗うことなど、堅く守るように伝えられた、しきたりがたくさんある—— 5 パリサイ人と律法学者たちは、イエスに尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人たちの言い伝えに従って歩まないで、汚れた手でパンを食べるのですか。」 6 イエスは彼らに言われた。「イザヤはあなたがた偽善者について預言をして、こう書いているが、まさにそのとおりです。『この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている。 7 彼らが、わたしを拝んでも、むだなことである。人間の教えを、教えとして教えるだけだから。』 8 あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている。」 9 また言われた。「あなたがたは、自分たちの言い伝えを守るために、よくも神の戒めをないがしろにしたものです。 10 モーセは、『あなたの父と母を敬え』、また『父や母をののしる者は死刑に処せられる』と言っています。 11 それなのに、あなたがたは、もし人が父や母に向かって、私からあなたのために上げられる物は、コルバン(すなわち、ささげ物)になりました、と言え、 12 その人には、父や母のために、もはや何もさせないようにしています。 13 こうしてあなたがたは、自分たちが受け継いだ言い伝えによって、神のことばを空文にしています。そして、これと同じようなことを、たくさんしているのです。』

⇒いかがですか？…実は、この当時のイスラエルには、あまりにも、たくさんの教えや命令というものが氾濫していたので、彼らほどの教えを守り…、何を優先すべきなのかということが、いまいち、よく分かっていなかったようです。そういったことの結果、当時のイスラエルの民たちは、聖書のみことばに、はっきりと、『あなたの父と母を敬え！』とか、『父や母をのしる者は死刑に処せられる！』（参照：出エジプト記 21:17）ということが書かれてあるにも関わらず、自分たちの両親を粗末にしていたのです。しかも、彼らは、そういったことの言い訳に、聖書のみことばを使っていたと言うのですから、ますます驚かされます…。

今、引用いたしましたマルコ7章の続きで、イエス様は、あまりにも当時の律法学者たちが、食事の前に、手を洗うことにばかり固執してしまっていたことに対して…、「食べ物汚れているのではない！あなたの方の心こそが汚れてしまっているのだ！」ということをお教えくださっています。しかし、残念ながら、この当時の律法学者やパリサイ人たちは、そういったような、ごく基本的なことさえも理解できておられませんでした。…と言うのも、無理ありません。だって、彼らは律法の教師でありながら、本当は、救われていなかったのですから…。ところで、皆さん、覚えてくださっていますか？イエス様は、山上の説教の、**マタイ 5:20** で、『まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、入れません。』』ということをお言われたでしょ？…と言うのも、律法学者たちは、神様のみことばを教えるべき立場に居ながら、その実、本当は救われていなかったのです。

良いでしょうか？皆さん、私たち人間は、もともと、この神様のことを愛して、神様の栄光を現わすために造られたのです。エデンの園にいたアダムやエバたちは、神様のことを愛して、その神様に従っておりました。しかし、サタンの誘惑に惑わされたエバとアダムが、神様よりも自分の方を愛して、自分自身の方を優先してしまっただけで、罪に陥ってしまいました。…もちろん、それは、神のみことばではありませんでした。罪とは、そのように、神様のみことばに逆らうことなのです。

さて、もう1度、今日のみことばに戻っていただきますと…、この時、イエス様のところへとやって来たのは、このような律法学者の1人でありました…。しかも、今日のみことばの並行記事である、マタイ 22 章の方を見てみますと、この時、この律法学者は、イエス様のことを『ためそうとして…』、この質問をした、ということが記されています。「ためす」と聞くと、何だか、悪いイメージがあって…、この時、律法学者が、イエス様に悪意を持って…、何か悪い動機で、この質問をした、と思われるかも知れませんが、決して、そうとは限りません。確かに、この言葉(πειράζω)は、「(例えば、悪魔が)誘惑するとか、誘(いざな)う…」という場合にも使われていますが…、純粋に、「(何かの物事を)試験する、吟味する…」という場合にも使われる言葉であって…、この時、律法学者は恐らく、純粋な動機でもって、イエス様のことを、真の神が遣わしてくださった人物なのかどうか？ということを知りたくて、この質問をしたのだと思われます。

● 第1の教え＝①神を信じ受け入れる。②どのように神を愛するのか？

そんな律法学者に対して、イエス様がお答えになっただけで、今日のみことばの **29-30 節の内容**です。そこで、イエス様は、こうおっしゃっています、『一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ、聞け。われらの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ！』』って…。信仰歴の長い方たちからすると、この言葉は、申命記 6 章から来ているということは、すぐに気付いてくださると思います。

実は、このみことばの 30 節は、元々書かれた言葉であるギリシア語を見てみますと、こういった順番で書かれています。「あなたの神である主を愛せよ！あなたの心を尽くし、あなたの思いを尽くし、あなたの知性を尽くし、あなたの力を尽くして…」って…。まずは、神である主を愛すべきことが命じられてあって、次に、それを説明する言葉として、「心を尽くし、思いを尽くし…」という言葉が続いているのです。

そういったことから分かりますことは…、実は、このみことばが1番に教えてくれていることは、**私たちが、真唯一の神様のことを信じ受け入れること**なのです。まず、皆さんが、この神様と和解し…、この神様との個人的な関係の中に入ってくださいることです。だって、ここには、ただ単に、「神を愛しなさい！」とあるのではなく…、『あなたの神である主…』という風に書かれてあるじゃないですか！そうですね？…ですから、まずは、あなたが、この真の神様からの言葉に耳を傾け…、この神様のことを理解し…、そして、その上で、この神様のことを、あなたの神 & あなたの救い主として、信じ受け入れてくださることです。このことを抜きにして…、あなたがこの神様のことを愛するなんていうことはできっこありません。

では、果たして、皆さんは、この神様のことを信じ…、また、愛しておられるでしょうか？実は、今日のみことばにある、『心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして…』という部分の、『尽くして…』という表現ですが、この部分を原語から直訳すると、「あなたの心のすべてによって…(とか)、あなたの思いのすべてをもって…」という風に書かれています。つまり、あなたの心のすべてをもって…、あるいはまた、あなたの思いのすべてをもって、神を愛すべきことが教えられているのです。

では、この、『心』とは何でしょう？⇒『心』とは、元々の原語であるギリシア語の辞書や聖書で用いられている例などを見てみると、「私たちの行動をコントロールする場所」であります。私たちの意志という風に言い換えることもできるでしょう。また、『思い』とは、この場合、「私たちの感情を支配しているところ」です。その次の、『知性』とは、「私たちの知識や理解」を言います。最後の、『力』とは、「自分が決めたところへ進んでいこうとする決意のほど」です。これらを総動員して、神様を愛すべきことが教えられています。つまり、簡単な言葉で言い換えると、それこそ、全身全霊で愛しなさい！というわけです。

ここで、『…愛せよ！』と訳されている言葉には、ギリシア語の「アガパオー」(ἀγαπάω)という言葉が使われています。「アガパオー」、つまり、神様が私たち人間に示してくださった自己犠牲の愛である、「アガペー」という言葉の動詞形です。…と言うことは、つまり、神様が私たちのことをアガペーの愛で愛してくださったのと同じように、あなたもまた、神のことを愛していきなさい！ということなのです。だって、神様が、私や皆さんのことを愛してくださった時、決して、神はいい加減な愛や、中途半端な愛でもって、愛されなかったでしょ？ヨハネ 3:16 を見ても、こう教えられています、『神は、実に、そのひとり子をお与えになられたほどに、世を愛された。…』って…。天の神様は、私や皆さんのことを、それこそ、ひとり子でさえ惜しまないほどの大きな愛でもって愛してくださいました。だから、私たちに救いの道が備えられたのです！そうでしょ？

今度は、私たちの番です。そのことを使徒ヨハネは、このように教えてくれています。**1ヨハネ 4:7-10**、『7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを下さって下さいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。』⇒使徒ヨハネは、このように教えて、まずは、天の神様が私たちのことを愛してくださったことを教えます。だから、その神を知って…、その神様によって救われた私たちクリスチャンは、その愛を実践することができるのです！…と言うのも、全能者なる神様が、救われた皆さんのことを愛してくださったからです！

救われた皆さんは、神様の愛を知って…、その愛によって変えられたが故に、その神様にならって、神の愛を…、アガペーの愛を実践することができるのです！問題は、私たちの意志です！選択です！私や、また、皆さんが、この神様の愛を実践していこうとするかどうか？です。だから、今日のみことばで、イ

イエスは、『心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ！』と命じられたのです。…と言うのは、50%や 60%程度の心の入れ具合や、あなたの力を 80%傾けた程度では、アガペーの愛を実践できないからです。あなたがアガペーの愛を実践しようとしたら、そこに必要なのは、あなたの 100%のパワーです！あなたの全精力を、そこに注いでくださることです。そうする時に、初めて、神が働いて、ことをなしていただくのです。

●神を愛した時に、伴う結果

もしも、皆さんが、この聖書のみことばの通りに、神様のことを 100%の愛でもって愛したい！と思われらるなら、間違いなく、皆さんは、神様を愛する者へと変えられていきます！…というのも、救われた皆さんの内には、全能者なる聖霊が住んでいて、その内側から皆さんのことを助けていってくださるからです。…じゃあ、私たちは、具体的に、どのように変えられるのでしょうか？実は、イエス様を信じて、本当に救われた者たちは、神様のことを愛するがゆえに、その神様のことを大事にし…、自分のこと以上に優先しようとなります。

⇒だから、聖書のみことばは、こう教えてくれているのです。Ⅰヨハネ 5:3、『神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。』って…。つまり、イエス様を信じて救われたら、その人は、神に従おうとします！そうですね？だって、その人は、自分を救ってくださった神様のことを、全身全霊の愛でもって愛しているからです。

実は最近、私が聴いた Poul Washer という先生のメッセージで、その人が救われているかどうかを吟味するために、「あなたは、天国へ行きたいですか？」なんていう質問は、ほとんど役に立たないと言われていました。…と言いますのは、信仰の有る無しに関わらず、ほとんどすべての人たちが、「そりゃあ、天国に行きたいに決まってるじゃないですか！」と答えるからです。実際、「天国に行きたい！」と答えた人たちの多くが、自分さえ、その天国に行ければ、その天国に真の神様が居るかどうか、一切、気に留めないと言っています。…果たして、そんな者たちが救われていると言い得るのでしょうか？

その Poul Washer 先生が言うのには、「本当に、その人が救われているかどうか、その核心を突いた質問をするならば、こう尋ねるべきだ！」と言うのです。それは、「あなたは今、神様が愛するものだけを愛し…、神様が憎んでいるものをすべて憎んでおられますか？」という風に尋ねるべきだと言うのです。…実際、そのように、神様によって救われ…、神に変えられた者たちは、必ず、罪や悪といったものを憎むようになります。詩篇 97:10 でも、『【主】を愛する者たちよ。悪を憎め。…』と書かれてある通りです。どうぞ、皆さん、もしできれば、Ⅱペテロ 1:4-8 をお開きください。『4 その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。5 こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、7 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。8 これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、あなたがたは、私たちの主イエス・キリストを知る点で、役に立たない者とか、実を結ばない者になることはありません。』

⇒神によって救われ…、神の子とされた皆さんは、愛や聖さといったような、神の御性質を受け継いでゆかれます。…というのも、神は、御霊なる助け主を、皆さんの内に住まわせてくださっているからです！だから、救われた皆さんが、この聖霊なる神様に、その身を委ねて歩んでいられるなら、決して、役に立たないとか、実を結ばないなんてことは有り得ないのです！

また、こんな変化もあります。どうぞ、ローマ 4:19-22 をご覧ください。そこに、アブラハムの模範を見ることが出来ます。『19 アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだは死んだも同然であること、サラの胎の死んでいることを認めても、その信仰は弱りませんでした。20 彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、21 神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。22 だからこそ、それが彼の義とみなされたのです。』⇒このように、もしも皆さんが、ますます神様に対する愛を増し加えていなら、それと同時に、神に対する信頼をも増し加えることになっていきます。だから、アブラハムや多くの模範的な信仰者たちは、神様により頼んで生きていくことができたのです。

また、そのように神様を信頼して歩んでいく者たちは、神様への捧げ物を、喜びをもって…、かつ、犠牲的に捧げていきます。だから、マケドニアの諸教会は、激しい試練の中にあっても…、あるいは、極度の貧しさの中にあっても、惜しみなく捧げていくことができたのです(Ⅱコリント 8 章)。

次に、もしも皆さんが神様のことを1番に愛して生きていられるなら、そこには間違いなく、素晴らしい人間関係が築かれていくということも、今日のみことばは教えてくれています。どうぞ、今日のみことばの、31 節以降を、もう1度、ご覧ください。

Ⅱ・自分の隣人を、自分自身のように愛する！(31-34 節)

そこをご覧くださいますと、律法学者の質問に対する、もう1つの答えを、イエス様が教えてくださっていることが分かります。それは、自分の隣人を、“自分自身”のように愛する！ということであり、そこそ、神が皆さんに願っておられることであり…、今日のメッセージの2番目のポイントになります。

●第2の教え＝どのように、自分の隣人を愛する？

今日のみことばの 31 節以降をご覧くださいますと、そこでイエス様は、『次にはこれです。…』とおっしゃって、もう1つの命令を教えてくださいました。それが、『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ！』という命令です。

例えば、クリスチャンの皆さんは、こんなみことばをご存知だと思います。Ⅰヨハネ 4:20-21、『20 神を愛すると言いつつ兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。』って…。もしも、皆さんが、イエス様を信じて救われているのなら、その同じ救いに預かっているクリスチャンたちのことを愛するし…、愛そうとするはず。だから、教会というところは、罪人たちの集まりでありながら…、そこには一致が見られ…、と同時に、神様の栄光が現わされていくのです。

また、クリスチャンたちが愛するのは、自分たちと同じクリスチャンたちだけではありません。ルカ 10 章、「良きサマリア人」の例えに書かれてある通り、本当に救われた者たちは、自分たちに敵対する者であったとしても、彼らが困っていたり…、助けを必要としていたりする場合には、助けようとする。そうですね？だから、イエス様は、マタイ 5 章で、こう教えてくださいました。『46 自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いも受けられないでしょう。取税人でも、同じことをしてはいませんか。47 また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまされたことをしたのでしょ。異邦人でも同じことをするではありませんか。48 だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。』(マタイ 5:46-48)って…。イエス様が、こんな命令を弟子たちに与えられたのは、弟子たちが、この命令を実践できるからです。でも、それは、簡単なことではありません。このような命令は、私たちが神様からの助けをいただいて…、私たちが聖霊なる神様の力を受けていく時に、初めて実践できていくことなのです。

また、私たちが、自分の隣人を自分と同じように愛そうとする時、どうしても欠かすことができないことがあります。それは、相手のことを赦す！ということであり、私たちが人間の中に、イエス様をおいて、完全な者など1人もおりません。だから、どうしたって、相手の言葉で傷ついたり…、イヤな思いをしたり…、また、裏切られたりすることが有り得ます。皆さんも、過去、何度も何度も、そういった思いをされてこられたはずです。

でも、皆さん。人から何かされて、傷ついた時って、それを赦すことができないと、自分自身も辛くありません？ヤコブ 1:20 に、『(人の)怒りは、神の義を実現するものではありません。』と書かれてある通りです。誰かの罪を、あなたが赦すことができないと、それは神様の栄光にも繋がっていきません。だって、イエス様は、自分を憎んだ者たちや、自分のことを十字架へ追いやった者たちのことを憎まれました？…そうじゃなかったでしょ？イエス様は、あの十字架上で、自分のことを十字架へ追いやった者たちの罪の赦しを、神様に祈ってくださったじゃないですか！

どうぞ、皆さん、もしできましたら、ピリピ2章をご覧ください？ピリピ2:3-5、『3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。4 自分だけでなく、他の人のことも顧みなさい。5 あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。』⇒ここで、みことばは、私たちが他の人たちに仕えるべきことを教えてくれています。…というのも、私たちの模範であるイエス様が、そのことを、ご自分の身をもって教えてくださいましたからです。そのことのゆえに、イエス様は…、9 節に書かれてありますように、天の父なる神様から祝福を受けられたのです。

…ということは、つまり、私たちが誰かの罪や過ちを赦す！ということは、神様を喜ばせるということだけに留まりません。私たちが誰かの罪を赦していくということは、他の誰でもない…、私たち自身の祝福へと繋がっていくのです。そうじゃないでしょうか？

● どうして、これらの命令が大切なんでしょう？

でも、一体どうして、これらの命令を、イエス様は、1番大切な命令だと教えてくださったのでしょうか？⇒ どうぞ、皆さん。もう1度、今日のみことばに戻っていただきまして、32 節以降をご覧ください。イエス様の教えを受けて…、この律法学者は、このように返します。『32 …先生。そのとおりです。『主は唯一であって、そのほかに、主はない』と言われたのは、まさにそのとおりです。33 また『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人をあなた自身のように愛する』ことは、どんな全焼のいけにえや供え物よりも、ずっとすぐれています。』って…。恐らく、この律法学者は、イエス様のことをはなから訴えるつもりでやって来た者たちとは違うような印象を受けます。この律法学者は、イエス様の教えに同意や共感を示しただけではなく…、イエス様の教えてくださった命令を実践することは、『どんな全焼のいけにえや供え物よりも…』、ずっとすぐれています！と言ったのです。明らかに、このようなことは、当時の間違った考えに染まっていた律法学者なら言わないよう内容です。

すると、その言葉を受けて、最後に、イエス様は、こう返されます。それが、34 節です。『イエスは、彼が賢い返事をしたのを見て、言われた。「あなたは神の国から遠くない。」×2⇒イエス様の、この言葉から、この時、律法学者の答えた返事が、そう的を外したもので無かったことが分かります。それで、イエス様は、その律法学者に対して、何とおっしゃられました？『あなたは、神の国から遠くない。』と言われたでしょ？

つまり、彼がした、この質問の答えと、救いとは関連がある！ということなのです。もちろん、正しい理解をしたからと言って…、そのことだけで、すぐ、この律法学者が救われるわけではありません。でも、救いの前には、まず、正しい理解が必要で…、この律法学者は、ある程度、その正しい理解に行き着いていたのです。

私たちは、まず、真の造り主であり…、唯一の主権者であられる神様を信じ、受け入れることが必要です。そうして…、その神様を正しく信じ、受け入れた者たちには、間違いなく、その神様のことを愛し…、その神様のみことばを守ろうとします。また、本当に救われた者たちは、神様の御性質を受けて、神様が愛されるものを愛し…、神様が憎まれるものと同じく憎んでいきます。そのように、神を信じる者は、まずまず、その神様のことを信頼してこうしていきます。だから、その信仰が試され、成長していくのです。

神様によって、そのように変えられた者たちは、神様の御性質を受け継いでいきます。…と言うのも、本当に救われた者たちは皆、神の子と、新しく造り替えられたからです。そうして、神の子とされた者たちは、他のどのような点よりも、「愛」という点において顕著に変えられていくはずで…、…と言うのも、愛こそが、神様の1番の特徴であり…、御性質だからです。そうでしょ？そういう意味におきまして、救われた私たちが、何よりもまず吟味しないといけない点は、私たちの神様に対する愛が増し加わっているかどうか？私たちの兄弟姉妹に対する愛が、行ないや犠牲の伴ったものとなっているかどうか？私たちの隣人に対する愛が、模範的なものとなっているかどうか？ということではないでしょうか？

信仰とは、ただ単に、教会に来ることはありません。もちろん、聖書を読むことでも…、あるいは、賛美を捧げることでもありません。信仰とは救いであり…、救われた者は必ず、自分を救ってくださった神様のことを愛そうとします。神様のことを愛するから、神様を礼拝したいし…、神様のことを愛するから、聖書のみことばを読んで、神様のことを知ろうとするし…、学んだみことばを実践しようとするのです！

どうぞ、まだ、イエス様をお信じになっておられない皆さんは、1日も早く、この神様を真の神、あなたの救い主として信じていただきたいと思います。この神様以外に、真の神…、そして、あなたに本当の祝福を与えることのできる御方は、おりません。この御方は、今も、あなたのことを愛し…、あなたのことを救おうとしてくださっているのです。どうぞ、神様からの招きを拒むことなく…、今、この神様からの招きに応じてくださることを、お勧めいたします。

また、クリスチャンの皆さんも、どうぞ、今一度、ご自分の信仰と言うか…、神様に対する自分の愛というものを吟味してみてください。「果たして、自分は、今日のみことばが教えてくれているように、神様のことを全身全霊の愛でもって愛しているだろうか？」って…。そこにこそ、私たちクリスチャンの祝福の源があり…、そこにこそ、私たちクリスチャンの完成があるからです！今、もしも皆さんが、神様への愛が不完全であることを認められるなら、それは感謝です。…と言うのは、そのことを示してくださったのは、神様だからです。どうぞ、神様の導きに従って、ご自分の罪や弱さを悔い改めてくださって…、どうぞ、神様への信頼をもって、今日からまた、新しい1週間を始めていっていただきたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。